

愚得隨筆

六

			一七四三四	和書門
一四	一〇	二六	三四	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
一五	一七	一四	三四	和書
四函	四冊	二架	號	類

內閣文庫	
番號	和 17434
冊數	14 (6)
函號	154 17



愚得隨筆卷五之下

弓矢類一之下

山鳥尾以下既見于上卷

淺草文庫

花廼家文庫

山鳥尾 雉尾

蕪矢ノ羽ニ山鳥ノ尾ヲ必用ヒ神頭ニ雉ノ尾用ユ上古ハ必用ヒシミア
ラス中古ヨリ用ル_レ未詳或外科ノ云子負ノ看病ニ諸事忌
ム_レ有之物ナレハ心付ヘキト云シ程ニ其謂レヲ尋ケレハ雉山鳥ノ羽
ナト家ノ内ニモ置マシキ物也ソノ故ハ血ヲ走ラシムル物也此故ニ
敵ニ中リテ血ヲ留メシキカタメニ雉山鳥ノ羽ヲ蕪矢ノ羽ニ付ル故
實也ト云フ本草綱目ヲ考ルニ血ヲ走ラシムル_レハ見ヘス雉ハ飛
_レ矢ノ如シニタヒ往テ墜ツ故ニ文字矢ニ从_レ今ノ人尾ヲ取リテ舟車
ノ上ニ置クソノスミヤカナラニ夏ヲ欲ト見ヘタリ先生云舟車ニ雉
ノ尾ヲサスハ天氣ヲ占ニクダ也雨降ニトテハ其羽シホタレ天晴ニト
テハ其羽立モノ也云朝鮮國ノ軍官ノ人々ハ雉ニ雉尾立ニシ也又

鷓雉ナリノ尾ヲ愛シテ草ムラ林ニ入スシテ雨雪降時ハ岩ニ
伏シ木ニ宿シテ求食コトナクシテ餓死ス故ニ帥廣カニ雪
封枯原ヲ文禽多ク死ス之ニ又諺ニ小兒夜啼スル時山鳥ノ尾
ノ十二生ナルモノヲ屋室ノ棟ニサシ置ケハ夜啼ヲ留ルト云魔
ヲ驅ル心有ルニヤ愚按ルニ横津守頼光ヨリ頼國頼綱仲政頼
政マテ子孫五代相傳ニ水破兵破ト云ニテ鎬矢アリ十六指夕
レ大中黒ノ矢ノ表ニ水破兵破ニ鎬矢ヲ差タリ水破ト云矢
ハ黒鷲ノ羽ヲ以テハキ兵破ト云矢ハ山鳥ノ羽ニテハキタリ源平盛衰記
近世山鳥ノ羽ヲ蕪矢ノ小羽ニ必付ル水破兵破ヲカ子タル
故實ニテアルヘキ石帯ノ丸韃巡方アリテ公事ニヨリテ用
ル所替レリソレ巡方トハ方ナルヲイヒ丸韃トハ圓ナルヲ云近

世方圓相交テ用ユ是通用ノ帶也此等ノ心ニテ山鳥ノ羽相
交通用スルモノナルヘシ

山鳥
真羽

○山鳥ノ真羽ト云ハ生ノ赤白ハツキト分チテ胡麻ズリノナ
キヲ山鳥ノ真羽ト云ナリ

山府
矢

○山府ノ矢ト申ハ山鳥ノ羽ヲニツ付タル昆ハ節景トリタル
ナリ小笠原弓法拔書

○山鳥ノ尾ニテハギタル矢ハマエノ物ヲ射時用也祝言ニハ
不用ナリ水野是詠弓法拔書

○山鳥ノ尾羽トリ様ノ一白キ府ヲ羽先トナリ弓法秘傳聞書

山鳥羽
無引

○或聞書ニ征矢ノ羽ハ真鳥羽ヲ吉トス次ニ黒母衣小鳥羽
鷹ノ羽也其外ハ羽和ニシテヨロシカラス山鳥ノ羽ハ血ヲ引

故ニ小羽ニ用ル也

山鳥

○惣原石ニテ云々云々云々山鳥の引尾の石矢安のしくりとき
を多紀陸資自八幡被寄

曾夜 石打征箭

愚按征箭ヲ曾夜ト訓ス曾箭曾夜ト同シキ故ニ征箭ヲ
附會ニテ曾夜ト讀セリ万葉集ニ於比曾箭ト讀タレハ古
言也曾夜トハスヤト云也サニスセソ同韻ニテ曾ハ須也雁
腋蕪矢ニ對シ直ナル根ナレハスヤト云也蕪ヲ射テヤカテ雁
腋ヲ射ルヲバスガリマタヲ射テトハ云ナリ

○征矢ニハカリマタヲハサハヌ事ナリ 美人草

○唐式諸府衛士人別弓一張征箭廿隻 征矢和名曾夜和名抄

○スガリマタト云々カブラヲ射テ後ヤカテカリマタヲ射ルヲスガ

リマタトハ云ナリタツスカリマタト云フアルマシキナリカフヲ射

テニノ矢ニスカリマタヲ射テナトハ云也サレハ跡部孫三郎キツ子

射タルニモキモタマシ井モ尾ヘテトカブラニテ耳ニノアヒヲハヒカ

セテテ矢ニスカリマタヲモツテ狐ノ生尾ヲ射切タルト物語ニ

モカタルナリ 美人草

○伊弉乎於毛比溼於比曾箭乃曾与等奈流麻溼奈氣吉都
流香母

○弓一張弦袋一口副弦二條征箭五十隻又胡籥一具 軍防令

○石打征箭 上古ハ大將軍ノ具足也サレハ真盛錦ノ直

岳ニ石打ノ征箭ヲ御免ヲ蒙リ候ハ最期ノ御恩ナリ

ト所型

盛衰記

日 ○石打ノ胡籙

盛衰記

○十八差タル鳩ノ石打

盛衰記東使戦木曾

○石打ノソヤセ四ツ三所藤ノ弓ノ真中トリテ

義經記

皆鷹羽

○皆鷹ノ羽ノヲヒ征矢皆山鳥ノオヒ征矢平人ハ持ベカラズ弓法秘傳書

目九指征矢

○金鐔ノ太刀ニ見九指タル征矢一腰取副テ引ヲ源平盛衰記頼朝征夷將軍

節陰 ○白晝ニ節陰斗少塗テ鳩ノ羽ヲ以矧タル征矢三十六指タルヲ

古高ニ負ヒ 太平記

山鳥

○三十六差タル山鳥ノ引尾ノ征矢森ノ如ニトキミタシ 日記

海龜

○義仲ハ赤地錦直垂ニ塗筆矢負 盛衰記

銀管 ○長崎愚四郎左衛門三十六差タル白磨ノ銀管ノ大中黒矢太平記

野箭

影

愚按曾夜ハ晷狩羽等ニ至マテ定式アリ其式ヲ畧セルモ

ノハ皆野矢也又鹿矢ト云獵箭也相州鎌倉ノ土人物語ニ

猪ヲカルニ野矢ヲ帶ト云其矢ノ割ヲ尋シニ野矢凡猪矢

凡申ス竹ノ節ハカリコソゲタメ セハ何羽ヲモ付テ所

ノ鍛治ニ鎌ヲスラセ一寸五分ニ寸斗柳葉ナト云フモノニ似テ皮矢ノヒミテ切六セ寸斗モ 鹿ヲ射ト云也征箭ヲ野矢ト覺スル

ハ誤レリ野矢ニモ式アリシヤ東鑑ニ委ク見タリ

○佐々木三郎盛綱侯野矢一腰進上ス脚上浴料也則是ヲ

見給フニ無文ノ漆羽鷲ヲ以テス様ヲ用テ是ヲ作キ藤ノ口卷

也今世皆卷ト書ハ不可ナリ青踏ノ羽ヲ以テ表箭トス是曩祖將軍天治

也

年中奥州梟賊征伐ニル後歸洛ノ日用此式ヲ云東鑑

○為朝征箭ヲモ能羽ニテハハガサリケリ増テ野矢ハ晴ノアラバコソ能羽ニテモハガメ夜昼朝夕ノ狩ナレハ昨日ハイダハ今日ノ狩ニ射損ス今日ハ明日ノ狩ノ料常ノ狩ナレハ能モ羽モコラヘサリケレハ雞ノ羽モ鳥ノ羽モハギ付クハギケルカ京ヘ上リテ後軍ノアルヘシト聞テ鎗ノ射タキヲモコソアレ野矢一腰尋常ニハツト云糸例ノ三年竹ノ節近ナルヲ節バカリコソゲテ洗モセス結構シメル糸鶴ノ下白ヲ藤ハギニゾハギタリケリ
保元平治年井本

征矢
野矢
○將軍家逍遙ノタメ由比ノ浦ニ坐テシメ給ノ前後供奉ノ人々皆直垂ヲ着リ箭ヲ帶ブ年四十以後ノ人々ハ征箭ヲ負

ヒ四十
モガラハ野矢オフト云東鑑愚按檠ナドノ時モ

四十
老者ハ守護スタメ征箭ヲ負テ御前ニ伺候

達者成人々ハ野矢ヲ負テ猪鹿ヲ射サシメノ料トソ見ヘタル

鹿夫
○材ノ衣物ニ同モノ袴節卷ノ弓ニ猿皮鞞鹿夫アマダ指テ

牛物草ヲソハキタリケリ
盛衰記

野矢
○シケドウノ弓ニ野矢ソヘテ給
平家物語

節影
野矢ト云フ何モ鞞夫ノ也色々節景シタル矢ハ鞞ニ指間敷也捲別白篋タルヘシ篋色節景シタル矢ハ糸々子細有征

矢ハ篋色節景ヲスル也是ハ鞞下ニ指ヘシ鞞夫ノ羽何レモ

鷹羽タルヘシ征夫ハ何レモ真羽タルヘシ
弓法論書

○野矢ト云ハ雜矢也野矢ハ羽ヲオサハル天氏云也但羽ノツホ

ミナトニテハキタル矢ノ類是也 要録正直書

深羽野矢 ○二位家折鳥帽子深縮緬青丹水手袴紅衣深羽野矢復毛行騰黒馬楚鞞水豹毛障泥 東鑑

鹿矢 ○ヲノクカキスヒタレニシヤサゲタル竹エヒラトリテツケ

シラキノ弓ノ井ヨゲナルヲウチカタゲ 曾我物語

白捲 ○ツルソモトシロニテハイタルシラゴシラヘ弓ノマン中トリ 日記

鹿矢 ○獵箭日本書記志々夜ト訓ス 曾我物語

日 ○タカウスベウノシ、矢ハズダカニ取テ付 ルヲ云也カワヘシ巻タリタル

夕夕 箭影 ○タダ箭影ト云ハシ ニテハナシ 弓治秘傳書

濃節村 ○征矢白崑拭崑式節村濃或黒塗 尺素往來

○白崑小節影 御と以て別々 矢

太平記公家一統政道

征矢野矢 ○近辺有火之時陣中將佐柏夾帶野劔如法寄御輿

程帶弓箭或ハ隨身ノ弓箭或ハ只征矢又野矢以テ征矢為吉ト又用龍口弓箭無難別當廷尉ノ佐用火長弓箭

大将此時柏夾也 楚秘抄内裏燒七

百矢

愚按百矢ト云ハ近世數矢射捨ノ矢ト云ニ同ニ百矢ニ腰取寄テ張カヘノ弓ヲ引シテナト見ヘタリ矢ニ腰トイフハ五十筋サレハ數矢ト見ヘタリ

○本間孫四郎弓ヲ強ク引ン為ニ着タル鎧ヲ脱テ置脇立

ハカリニ大童ニナリテ其後百矢二腰取寄せテ張カヘ弓ノ
寸引シテ 太平記山門政

○白鳥ノ羽ニテハギタル矢ノナユ末三伏有ケルヲ百矢ノ中ヨリ只
二筋抜テヲ取添ソコ誹歌ヒカウタヒテ閑ヒラ々ト向ノ尾ヒ渡ル山門政

○トガリ矢ソヤ百矢 ツトリノ節ヲ本スベシ 美人草

木頭鋒小 數燒 角木

愚按木ニテ鏃ヲ作リシ數矢ナリ

○神保宗右衛門尉安富民部ガモトヘ今朝箭負ノ夫河
原ヨリ落失テ着陣セズ候間木鋒ヲ少合刀候ヘトソ申ケル
應仁記

○ウツ木青木ニテ木鋒ヲケヅリイトマアラズ扱又鉄ヲ木鋒

ノゴトリキハサキヲノミノゴトリ作り是ヲスヤキト名付毎年七月
七筈ノ矢ト号ニテ上ル十筋ノ内五筋ハスヤキ五筋ハ木鋒大名小名
知行役ニ主人ヘトル是ヲ數矢ト名付ク 北条五代記

○角ノ細伊多都伎木ノ伊多都伎延喜式按ニ木鋒ハ此等ノ制
ニヨレルナルヘシ

數燒 ○スヤキト云ハ鉄ヲ打ムテ塩或ハ味噌ヲ付テ又ヲ燒ナリ數
燒ト書クヨク又劔目利書ニ見ヘタリ射捨ノ數矢ナレハ鹿

相ナル鏃ナリ

○木鋒羽ノナガサ四寸五分ナリ 萬秘傳書

角木 按ニ卷藁矢ヲ羽角木ト云ハ古ノツソ見キワリトテ

木割 式ハイナ井或ハ櫛ナトニテ廻リ四寸長六寸斗ニ拵テ鏃ニセシ

ナリ其言葉ノウツリテ卷藁矢ヲハ鹿角ウツキニテ
ヲ作ル故ニシカ云羽ノナキヲハ棒ツノ木ナト云ナリ

○或云大坂御城中
今モ一万余筋余アリ長サ一
寸余其形今ノ柳葉
按ニ古ノ木鋒ナリ 市岡式部物語

懸矢

愚ニ接近世云フ射捨ノ數矢也羽ノ損センコトヲイトヒテ數矢ヲ
ハナテ助ナ五筋程ツ編テカケ置ケハカケ矢ト云歟延喜式兵
庫寮梓弓ノ条下ニ木綿七西編ハム箭料トヤレハ上古モ矢
ヲ編置ニ歟

○公方御弓ヲタイシ御矢ヲ負役人ヲ調度ヲ掛ルト云將軍
家佛詣社參上洛ノ時此儀式有之御征矢ヲハ懸矢氏云ナリ

要録正直書

○ムツルノ兵衛尉懸夫ヲハガズトテトウノ羽ヲボケルガ不足ニケ
レハ郎等共ニモシヤ持タルトタツ子ケレハ上六太夫ト云弓ノ上子
聞テ此邊ニトウヤハミ候見ヨト云ケレハ下人立出テミナ只今
河ヨリ北ノ田ニハミ候ト云ヲ聞テ則弓矢ヲ取テ出タルニトウ立
テ南ヘトビケルヲ上六矢ヲハゲテ左右ナクモ射ズイッレカハコカレ
タルト云ケレハシリニ飛ヲコガレタルト云ヲ聞テ猶々イソガズハルカ
ニ遠ク成テ何ノ南ノ岸ノ上ニナリニケル時能引テハナチタルニ
アママタス射落シテケリムツル感興ノアマリ不審ヲイタシテ
問ヒケルハナト近カリツルヲハ射サリツルズ遙ニ遠クナシテハ射
ルノ心得ズト尋ケレハ其度候
ルヲ射落タテハ川ニ

落テ其羽タレ侍リナニ向
テ射落タレハヨソカリ羽
ハソニセストツイヒ
心ニマカヒタル程誠ニユシカリケル上午

著聞集

鐵椎
○矢ニ根スゲテカツカウノ支是ハ根ヲスゲテ子ダ卷ヨリスケ節
ノ方六寸五分ニテ懸合タルカ吉シセ八寸有テカケアヘハ上々也ニ
三寸ニテカケアヘハ必心持ヨリモ四五間ノ内ニテサガル也十間ノ外
ヘ行ラハ矢ワザモナシ尤專一ニスベキ事
山井武鑑

平題

愚按鐵ノトガラサルモノナレドウスキハ衝ヌクトイウヲテイタツキ
ト云也今モ世ニ戸板ヲキザシキ釘ヲハ板衝トイフ也古代ノ的ハウ
ス板ヲ以テ造レハ板衝ノ縁モアルニヤウスキヲトサシモノハ板ツキ

ト云ヒシ欵角ノ細伊多都伎木ノ大伊多都伎トイフモノ延喜式
ニ見タリ

○鐵十二兩二分熟銅三分以上麻麻伎鐵科 延喜式

○門部府生ト云舎人海賊近寄ケレハ府生サハガズシテ引カタ
メテトロクトハナナテ弓ヲラシテ見ヤレハコノ矢目ニモ見ヘスシ
テ宗トノ海賊ガ井タル所ヘ入ヌハヤク左ノ目ニイタツキタナニ
ケリ
宇治拾遺物語全文
並細射ノ下ニ見タリ

○貫之ノ古今ノ序ニ
花小おひはく等のあらまよ
さき
のいもさき
さき

○あきとらけの村ははるか
のいもさきはまよあ
さき
さき
年中行夏
歌合為忠

○今日ハ多クはらの羽の外

羽のりりききりり

あしり

麻麻伎

○麻麻伎鏃

並ノ細射ノ下ニ記ス

鏃

楯破

蠅尾

鳥古鑿根

雁股

角キワリ

鋒矢

愚按鏃ノ支神代ニハ聞ヘズ人皇ノ始第ニ代綏靖天皇倭鍛部

天津真浦シテ真鹿兒鏃ヲ作ラレシ支日本記ニ見ヘタリ羽々矢

ノ下ト合考ヘシ允恭天皇崩シ給ヒシノナ太子木梨子輕皇子

御牙穴穗皇子ヲウシナントシ給ヒシカハ各兵興シ給フ時穴

穗括箭輕括箭ト云フ始レルヨシ日本書記ニ見ヘタリ古事記ニハ

其時作レル矢ハ銅也故ニ輕箭ト云穴穗皇子ノ作り給フ所ハスナ

ハナ今ノ矢也コレヲ穴穗箭ト云ヨシ注ニキ穴穗皇子ト云ハ安此注ニヨ

康天皇ノ支ナリ

レハニ代ノ朝廷マテハ銅ヲ以テ鏃トス此時始テ鐵鏃ハ未ニ次

○山城國ニテ地ヲウカナシニ古キ石楯ヲ堀出セリ中ニ太刀ヤウノモ

ノ矢根十二本アリ近世イフ柳葉ト云根ノ如ク真鍮ニテ鑄物ノヤ

ウニ見長一寸四分中心身ヨリウシ短シ真鍮ノ板金ニ碑文アリ又大和

國坪井八幡ニ頼光ノ矢根ト云物アリソノ割モ人ノ鏃ニ同シ

○矢ハ三年竹ノ極テ節近ニ金色ナルヲ洗ヒ磨ケハ性弱ナントテ

節バカリコソケテ木賊ヲ以テ磨キ猶輕クテ折モヤセントテ鐵ヲ

打ノヘテ篋中過マテ節ヲ通シテ入タリ羽ハ鷲梟鷄ノ羽ヲ嫌ハ

ズ藤ハギニ卷タリ竹コラヘズシテ破碎ケル間角ヲ續テ朱ヲサ



シタリ矢根ハ楯破錦倉本ニ鳥舌ニモアラス鑿ノコトクナル物ヲ

サキ細ニ厚サ五分廣サ一寸長サ八寸ニウタセテマチキハヲ篋ニ

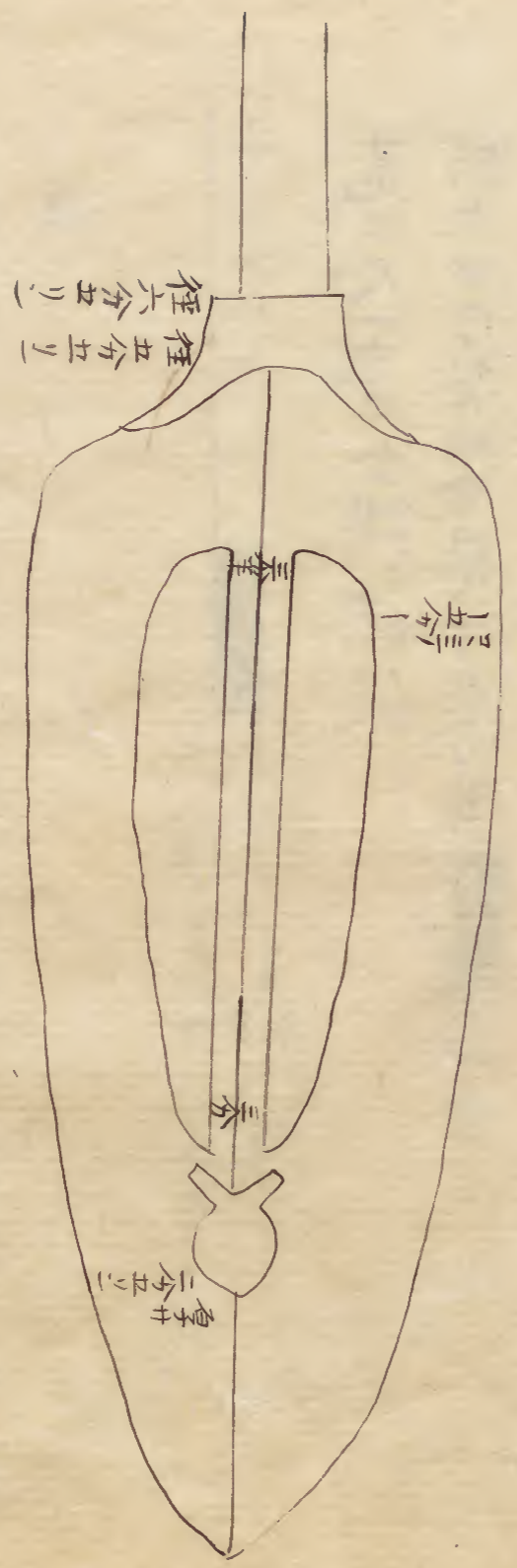
スリキセ氷十ドノ様ニトキ磨タリ又本ニ油ヲサス上矢ノ鏑ハナマ
 朴ヒイラギナト以テ目ノ上八角ニ押削リ目丸ツサシタルニ又二寸子
 先六寸且六寸ノ大雁股ヲ子チスケニ峯ニスリタテ、鏑倉本ニ峯ニ
 モ又ヲツケタレハ小長カラニツチ違テ瓶子ニ立タルニ異ナラス箆ハ
 白晁ニ山鳥鵠ノ霜フリテ合ハキニ本四立ニシテハギタリ二十四指タ
 ル腹ニ此鏑四筋差添タリ 保元平治参考

角より〇ニテ橋マテ寄ルナラハ角キハリヲ以馬ノ大腹ヲ射ヨ 盛衰記

〇是ヨリ放タン矢ハ征箭トカリ矢ヲヌイテ射ル氏已等ガ鏑ヲト
 ヲサニ一紙ヲ貫ヨリモアタフルヘシ 盛衰記

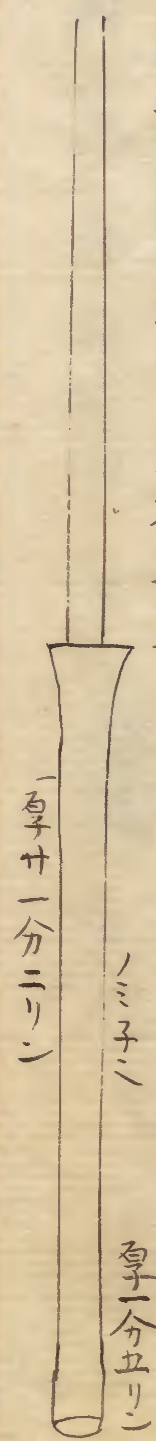
〇鏑倉鶴岡八幡神宝真羽夫十五本篋ハ黒シ鏑ハ皆真鍮也
 其中ニ如此ノ鏑アリ長サ三寸二分  又  如此ノ鏑

アリ長寸一寸一分常ニハ異也 鏑倉志



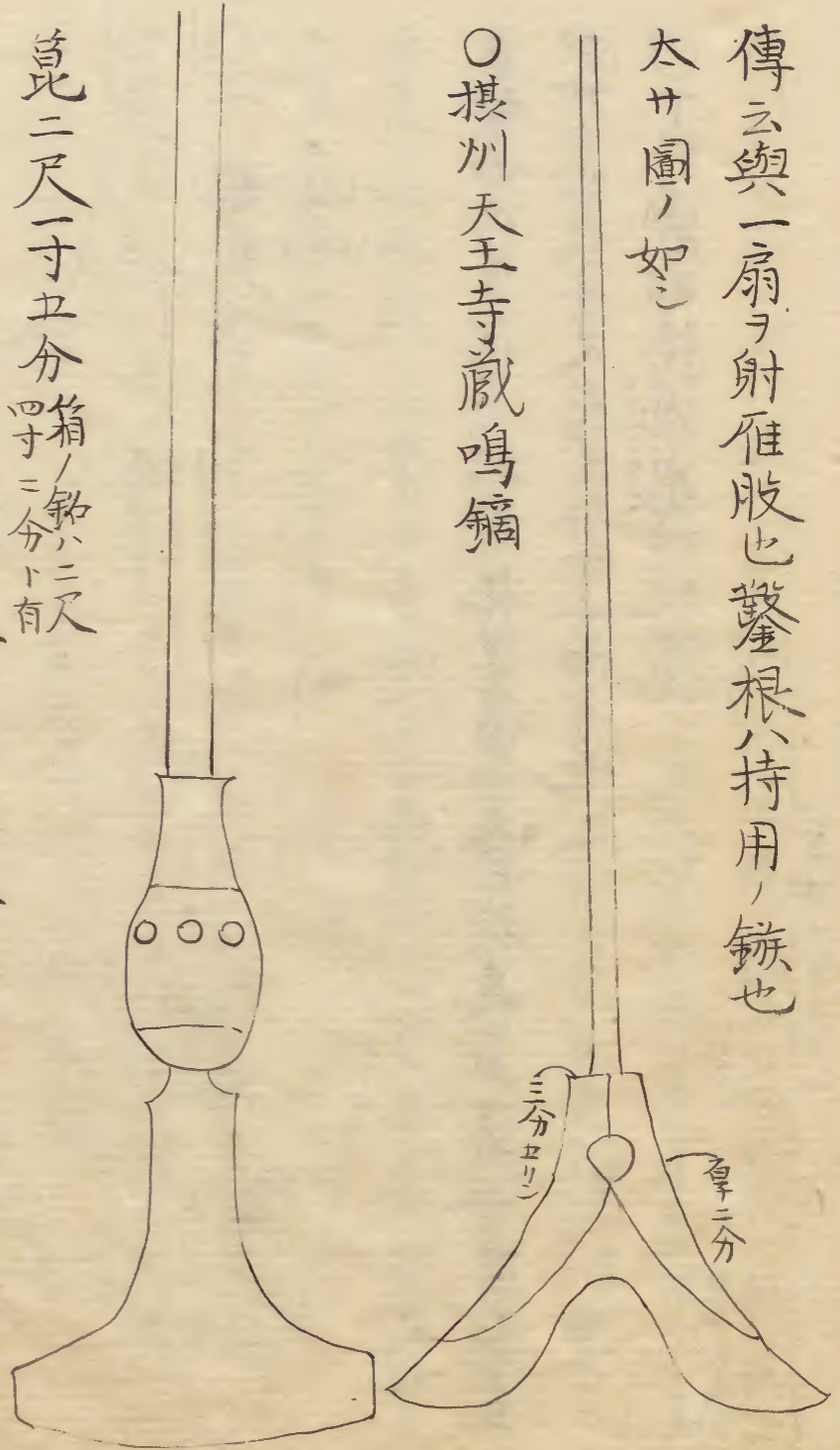
右鎮西御曹司爲朝鏑根重サ百四文目根長五寸六分廣二寸厚
 四分中心長寸尺三寸二分四分四方也

〇下野國那須湯泉權現藏



傳云與一扇ヲ射雁股也鑿根ハ持用ノ鏃也
太サ圖ノ如シ

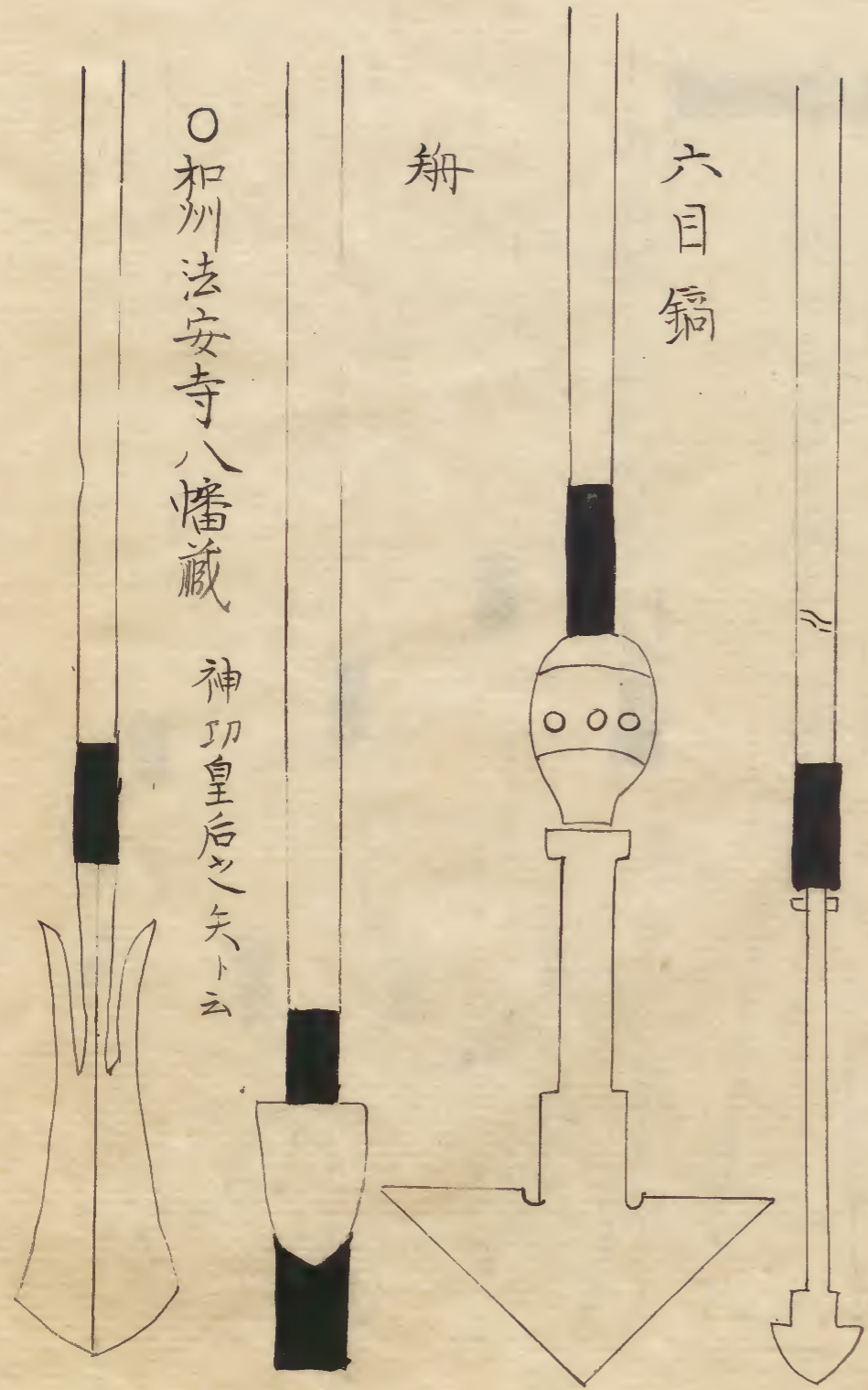
○根州天王寺蔵鳴鏃



寬二尺一寸五分箱ノ鏃ニ尺
羽中四寸筈四分根一寸五分蕪一寸三分五厘
○和州法隆寺蔵矢矢

六目鏃

舩

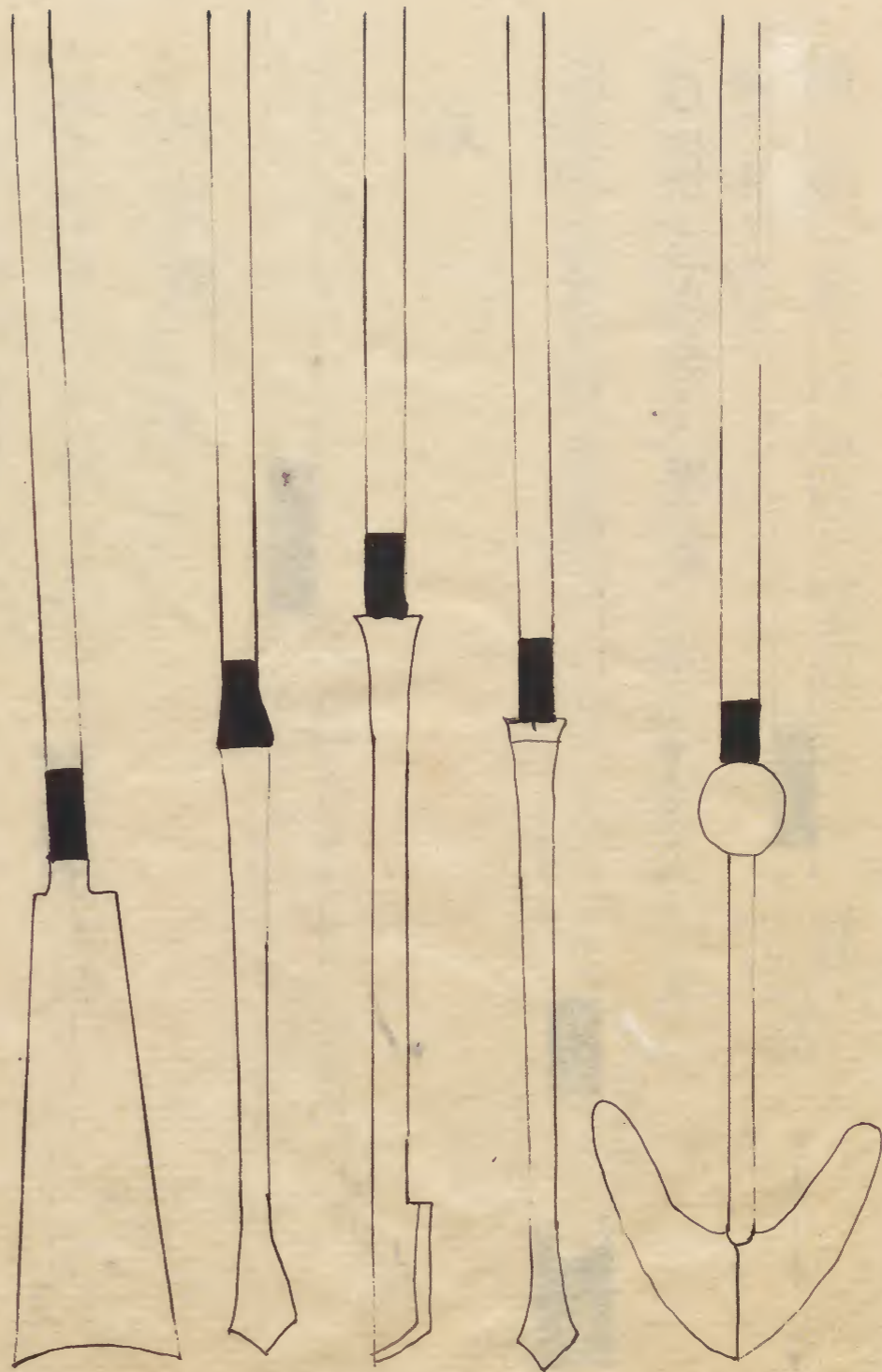
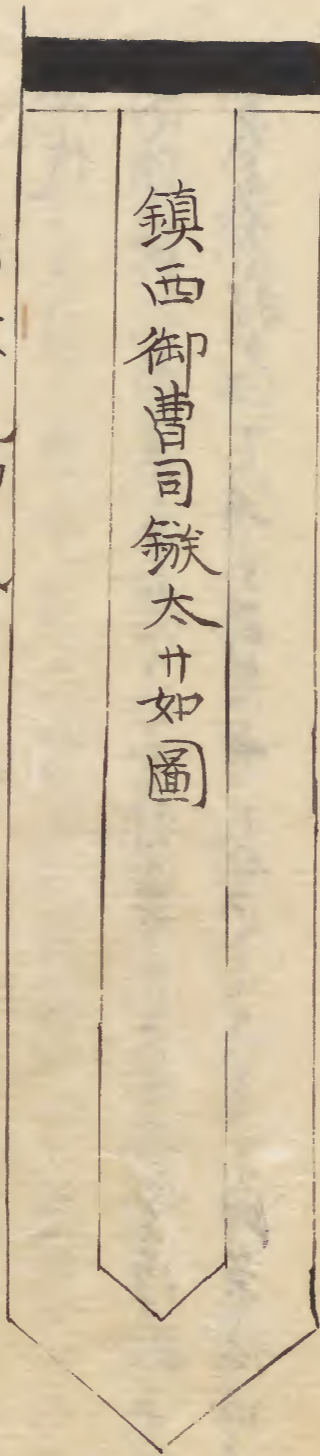
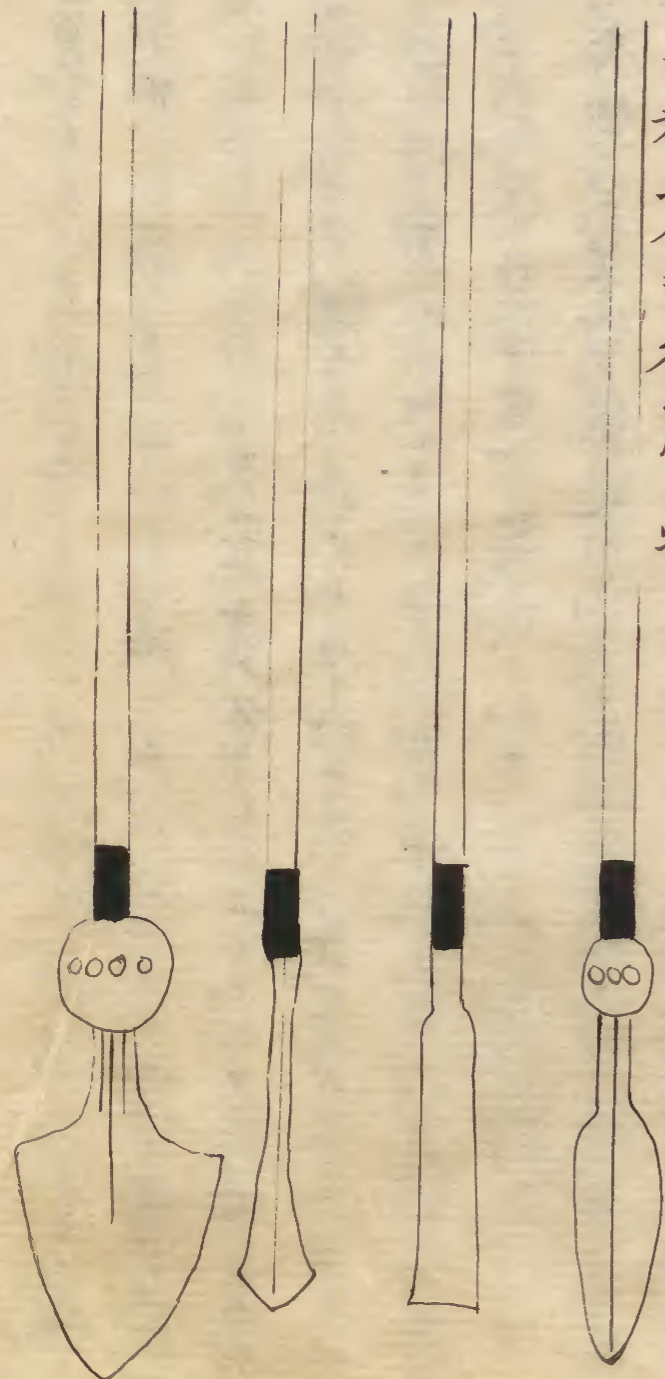


○和州法安寺八幡蔵

神功皇后之矢ト云

○南都正倉院御蔵玉物

鎮西御曹司鍬太廿如圖



申さるる節を尋し入るるしは傳ふものより長久き
血のほくよのやうとありは中心ナカゴの事なりを平記の時
かへもや中心といひ妙観院因幡守者今村長舟ヨサフネの族の
のこ死なむを言ひあきて中心をトク傲しあうし一たあう
きといふもく言葉や平記物語みあうをうけて
りかとり源を是は平や唐草とふ混る人なりと
つとハ族のまらまきの事とくく取らうと未を能引か
夫を後れと誘ひあうをぬみ引けしあうを後
かひあし討てし治る

ノカフキ
○之河守位人足助次郎重範之族のちよと之末之依るかつま
のよまを引け暫しめし丁と詠ひ
太平記置置軍

中心 ○妙観院の因幡守者今村尋常のの善同町みあう龍なる之
年行をもよほけけし押割て長舟并の族のちよと之末之依る
かき申子とすトクて移りあう出巻のよと之末の依るを以て
と先よ巻て之平と移るるを源のめくみ負殿
太平記三月
はる合戦

葺庄 ○宗長三浦重家とくくしいひ遠て此系信性弱く未末經
初の夫とく仕付しとて忠告の義の十四末あうを以て源とら
と割のけ新居紀四郎宗長也書付
盛衰記保平遠夫

- 大和國天國柳葉
- 備前國則宗沢海
- 備中國青江貞次笹葉
- 山城國粟田口國安燕口
- 山城國久國筭
- 甲斐國重弘雁鳥鳴尾
- 豊後國有行牛角
- 大和國當麻友行稻葉

大和國則弘島古

大和國弘村鶴嘴

大和國包永杜谷樹

平安城信國鉞

山城國光重了海

近江國高木貞宗籍尾

越中國義弘鴨嘴

備後國三原吉永蟹爪

豊後國行平劔先

加賀國友重獨鉞

肥前國貞長枇杷葉

對馬國安光銀木葉

相模國正宗劔光等也

紀伊國熊野天狗

伊予國清二郎

越前國黒田高來

摂津國柱本

丹波國口人各劔鍛治也天狗ヲ作ノ劔ト云丹波呼人ハ狩又ヲ

能作ル百枚形ノ枚形アリ關白秀次公殊ニ称美シ給又關

白形ト云アリ樓ニ織田形ト云アリ信長公高來乃弟子ニ安土ニテ作ラセシヲ云

越前ノ言年換續留^{ツキ}て根を絶^ツトと云ふなりルリ

弦 關弦 伏弦 塗弦 替弦 順弦 坂弦

予養年ノ比百置宗圓ト云禪門ノ比八十歳余ノ老人也此人ノ物指ニ養年ノ比見タリキ祖母弦ヲ作ル上ナリシカ今弦ヲサストハ異也昔テテ縫テテノゴトクウミチカセノ如クヘテ水ニツケヨリヲカケテ米俵ヲツルシマキタリト語ル予如此シテコロムルニ其弦ムラナク尤強シ

伏弦 ○職人盡言言業書ニフセ弦モ候セキ弦モ候ト見ヘタリ愚按フセ弦ト云ハ常ノ白木ノ子ニ用ユル弦也ヨリフセテヲケハセセ

キ弦ハ糸ニテ巻ヲ云也糸セキ平セキノ田アリ
威倉威倉糸糸甘甘糸糸
たのまめや人をハヒハヒくぬをくぬののきれぬきれぬちちととひひハハリリククニニ

○或人云ろノ未彌ノ木ヲハ額木本彌ノ木ヲハ関板ト云弓法抜書

是齊是齊云等輩ノモノ、弓ヲハ弦輪ノセキキハヨクハハテ張ルヘシト云

合考レハ弦輪ヲ作ル所ヲハ葎ヲ以テ巻テ作ルナレハソノ如クニ

弦ヲ巻ユニソレニ准シテ巻キシ弦ヲセキ弦ト云歟

備弦 ○替弦ヲ上古ハ儲弦儲弦宇佐由豆留宇佐由豆留副弦副弦ナト云ニ也各儲弦ヲ蔵

于髮中于髮中日本記日本記宇佐由豆留宇佐由豆留舊事記舊事記

副弦 ○弓一張弓弦袋弓弦袋副弦二條征箭征箭五十隻五十隻胡錄一具胡錄一具軍法令

坂弦坂弦 ○坂弦坂弦関弦関弦尺素尺素往來往來京ハ坂ヨリ京ハ坂ヨリカフ坂弦ト云

替弦 ○楯ニ三枚橋ニ渡サントテ取アツメ弓ヲ替弦ヲ以テ代ニ組盛衰記

○七ニナリ成真弓ノシメナリニヌリタルニヌリ弦カケテ真中取
盛衰記

七キル ○重藤ノ弓ニセキ弦カケ盛衰記関東関東下下配配塗弦塗弦関弦関弦ハ露露ヲ凌凌ガニ為為ナリ

順弦 ○順弦トハ藤ハナシノ弓ヲ張リ立ル時用元弦ナリ太クシテ葎ヲ以テ

セキニ弦ナリ

ツラオ ○梓弓アツミ都良ツラ絃取オトリ波氣ハゲ引人者キト後心ハナチ子知人シロヲ曾引ヒク 万葉

弦作式 ○弦ツクルキ事未弭寸五分本弭八分也又一説矢摺寸八分本

弭一寸三分也 三儀一統

搜 ○搜ノ下四寸五分搜ノ上五寸分搜ノ下五寸分ヲ七節ニ卷留ヘシ 日

弦作式 ○或説ニ軍陣ノ弦作ノ一本管一寸二分未管一寸八分ヲヤウノ下

四寸上五寸引合アハセテ四寸五分也サクリト云ハ夜ノ言葉ト

ルハ^{ナリ}ト云ヘシ 弓法秘傳書

○弦衣ノ赤青ヲ可用ナリ 弓法秘傳書

弦袋 休弦 閑弦 弓法秘傳書 懐橋談 後鳥羽天皇

弦袋

○唐式ニ諸府衛士弦袋 由美都流 和名抄

○愚按ニ近世ハ丸キヲ弦卷小児ノ帯ル守袋ヤウノモノヲハ弦袋

トイヒマヤマレリ弓ヲ納ルカ故ニ弦袋トハ云ナリ弦袋ハ服

ノ腰緒ニ付納ルナリ上古ハ腰緒ニテは服ノ高カシラヲ 緒ヒ弦

袋ヲハ^{ナリ}サカノサヤニ入シ木ニ車ノ如ク廻ルヤウニシテ腰緒ノ

アマリヲ以テ納メシ也中古ヨリ腰草出来シニ弦袋ヲ付ル也

東鑑ニ見ヘシ腰 アテ^{是ナリ}サテ用ル時ハ弦輪ヲ弓引ニ入テ直ニ腰ヨリサシ出シ

張ルナリ故実アレハ口傳ヲ受ヘシ又弦袋ヲ太刀ノ足間ヨリサケテ腰緒ニテ留ル也

○永保三年九月曾祖陸奥守源朝臣義家奥州ニオ井テ將軍

三郎武衡同四郎家衡ト合戦ヲトグ左兵衛尉義光京都ニ候

ス此事傳聞朝廷警衛ノ當官ヲ辞シ弦袋ヲ殿上ニトキヨキ

ヒソカニ奥州ニ下向シ兄ノ軍陣ニ加ル後忽敵ヲホロサレ畢 東鑑

○我朝三種ノ内侍所ト云ハ天照太神百玉ノ未マテモ我御貌

ヲ見マイラセントテ移シ留給ヲ御貌ヲ形トレリ其故ニ百官悉

ク朝ニ召遣レ奉トイハ氏衛府ノ官ハ浅キ官ナレハ地下ニシテ

奉公イタス直人ニ紛ベキニ依テ内侍所ノ御貌ヲ学ヒテ弦

袋ヲ賜テ左右兵衛尉赤皮左右衛門尉藍皮是ヲ以テ侍

ノ呂ヲ知ル國王ノ御宝ナレハ非分ノ難ヲノガルベキ筈ニルニテハ
コソ官ヲモ一ツケカスハ有難キ
盛衰記高倉宮
信連歌

○忠盛ノ郎等左兵衛尉家貞ト云者アリウスアヲノ狩衣
ノ下ニモヨキオトシノハラ巻ヲ着弦袋ツケタル太刀ワキニサム
テ殿上ノ小庭ニカシコマル

○對馬州八幡社神宝ニ弦袋アリ神功皇后ノ物ナリト云
傳フ銅ニテ作徑八寸許ワニクナ口ナンドノコトク見ユルト云對馬先
臣語

○青砥左衛門出仕ノ時ハ木鞘巻ノ刀サシ木太刀ヲ持セケ
ル刀叙爵ノ後ハ此太刀ニ弦袋付タリケル太平記北野通夜物
語

弦卷 ○弓者本重藤塗籠糸累等加弦卷
左右兵衛尉左右衛門尉弦袋付ニ躰賀茂祭圖中ニ

ニ出ツ賀茂祭ハ仰月中西元明天皇和銅七年ニ山城國司檢
察ニテ年コトノ祭タルヘキヨシ鳳詔ヲタツサレ



右繪ハ龜山院御繪合之時經業御所調進也云々
セモリ ○弦ノ塗ヲ六段弦ヲ掛ヘシ又白木ヲ用ニ白弦也同弦輪ノ

上下共ニセモナリ成ヘシ又元関三寸中関三寸末関三寸五分ニ
定ム関ハ右ヘヨリ付ル

弦袋 ○八幡殿後之事の分致の所より多岐にわたる事と云ふは之
りけり兄の^{コト}後の免束ある事等も亦ありし中関
よりれは即ちそのりし陣下より弦袋と云けり述下り
なり

見付
弓袋

源氏等催促ニテ平家ヲ亡シ奉ラントラ白旗白弓袋ニ成リ返
ル

愚按弓袋ハ今ノコトクハナリ布一幅ニテ作り張リニテモ入ルヤウニ
作シ也色ヲ今ハ水色ニス上古ハ極リタル色ハナシ源氏ハ白平家ハ
赤頼政ノ家ニハ水色ナリ頼政弓袋ノ家ナレハ今水色傳用セシト
ルニ上古ハ弓ノ袋ニ入馬上ニテ弓袋指トテ神変上洛帰陣等時必

持セシナリ

○八幡殿家捧白色白則金性也形部殿家捧黑色水性也

水ト金和合持長生相也盛衰記及東洛書刑部殿ト

○源氏等催促ニテ平家ヲ亡シ奉ラントラ白旗白弓袋ニ成リ返
ル

○白布五十端取出ニテ蔵人カ前ニ積置セラ大納言云ケル白比
談議申侍ツル事大將軍ニハ一向奉頼其弓袋ノ料ニ進スル
也 盛衰記

○参河守範頼為平家追討使赴西海午刻進發旗差旗差
一人弓袋一人相並前行 東鑑

○御駕御弓袋差御旗差御 東鑑
甲着等在御馬前ニ

○無文深羽ノ野矢 東鑑 ○鶴蕉羽 尺素往來

真鳥羽 近世矢ノ羽ニ用ル所鶴ヲ以テ上トス鶴ニ大鳥アリ小

鳥アリ大鳥ニ尾十四枚アリ小鳥ノ尾八十二枚アリ鶴ノ羽ヲ真

羽ト云中ニ就テ大鳥ヲ云ヘシ鳥ト云字ヲ入テ真鳥羽トイフ故

實也小鶴ヲ小鳥ト云也鷹ノ羽トハ鷓ノ事也

○真羽ヲ真羽トハカリ不可云鳥トイフ字ヲクハヘテ真鳥羽トイ

フヘシ又大鳥羽トモイフヘキナリ 三礼秘傳書

○真羽トハ鶴ノ羽也鷹ノ羽トハクマタカノ羽ヲ云ナリ 和礼儀統要約集

○真鳥住仰各子之神社之菅根子衣爾書付令服兒欲

得 万葉集仙覺抄ニ真鳥ハ鶴也エビスハワシノ羽ヲハマトリノ

羽ト云ナリウナテノモリハ美作國名所也ウナテノ森ヲイヒ出ニ

タメノ諷詞ナレバマトリヌムト云リ下畧

○鶴鳩ノクロツバハ判官彈正ノ官ノ人ナラデハ付ラレマツリ候又

入道ハクルミカラス

ハルニキ ○羽ノホソキカタラスルモキ氏又ノイソトモ云ナリ 美人草

○木曾ハ射殘シタル護田鳥尾ノ矢負テ 盛衰記

○白山ハ護田鳥尾矢負テ三月トイフ粟毛馬ニ乘タリ 日記

○石赤の羽と云ハ鶴の尾の石赤也け羽終ク成リ是を可也

石赤ハ侍也と云石赤の羽矢と云ハ鶴ハ羽ハ侍也と云

鶴の尾ニ取リテ羽ハ侍也と云石赤ハ侍也と云

今十二枚アリ石赤ハ羽ハ侍也と云石赤ハ侍也と云

石赤ハ侍也と云石赤ハ侍也と云石赤ハ侍也と云

羽はともむしの也

○何よの向の羽はとも平加鳥

太平記藤房道世

○鷲鳥蔣勣切韻云鷲音田和名太加今按古語曰俱

知西字急讀ノ屈ス百濟ノ俗鷹ト稱ス日本私記ニ見ヘタリ

○鷲鷲 唐韻ニ云鷲ハ大鷲也鷲ハ和名於保和之鷲ハ古和

之鷲鳥ノ别名也山海經ニ云小鷲也

○鷹鳥 廣雅ニ云鷹コレヲ黃鷹ト名ツク俗ニ云和賀太加ニ

歳コレヲ撫鷹ト名ツク俗ニ云加太加閉利ニ歳コレヲ青鷹

白鷹ト名ツク今按ニ白ハ色ニ隨テ名ツク俗説ニ鷹ノ白

キモノハ雌雄ヲ論セズ皆コレヲ之良太賀ト名ツク青白ヲ

論セズ大ナルモノ皆於保太加ト名ツク小ナルモノ皆於勢ト

名ツク漢語抄ニ兄鷹ノ二字ヲ用テ名トス所出未詳俗説ニ雄鷹コレヲ兄鷹ト云雌鷹コレヲ大鷹ト云 以上和名抄的矢

○競ハ火威ノ鎧著テ星宵ノ緒ヲシメイカ物作ノ太刀ヲキセ四

サニタル大中黒ノ矢負ヒ瀧（貝）骨法ワスレジトヤ鷹鳥ノ羽ニテハイ

タリケル的矢一手サシソノ 平家物語

○競ハ瀧口ノ名残ヲ惜ミケルニヤ白羽ノ矢ヲ負スリケリ

盛衰記三位入道入寺

○的矢ノ羽ニウスヘウヲツクル交アルヘカラスサハ羽クルシカラスサハ

ハトハタウノ羽ノ交也ヨノ鳥ノ羽ヲハサウノ羽ト云也人ノ方ヨ

リサハバナドコハレニ時ハタウノ羽ゾト心得ヨ鳥ノ羽ヲサハトテ

ヤル夏アルベカラズサウクノ羽トテヤルベシサハ人時ハミリト
イハズ一トリト云ヘシ
上原豊前守高家
弓法覚書

○兄矢^見穿矢之事當流ニトムキノ矢ウチムキノ矢ト云也甲矢
乙矢ト云ハ人皆知ス依テノ事也トムキハ兄矢内ムキハ穿矢也又
陰陽ニ取時モ外向ハ陽内^向ハ陰也羽ノ表外^向ルカ外ムキ内^向
向タルカ内^向ナリ一切物ノ向フト云表ノムクヲ向フト云也羽ノクキ
ノ出タル方ハ羽裏也世間ニハ羽裏ノ内^向タルヲ穿矢ト云世間ニモ
又外向ノ矢内^向キノ矢尾沙汰スレ右ノ如ク羽ウラノ内^向タルヲ内
ムキト云也サカサマ事也男女ニ取時モ男ハ左ヲ賞ス女ハ右ヲ賞
ス鳥ノ羽ト云ハ尾カ本也ヒラキガ本也トムキハ左羽也内ムキハ右羽
也又兄矢乙矢ト云ハ的矢又ハ矢頭畧儀ナカラ角木マテハ云ヘシ

水野是齊弓法拔書

アハキ
アコナコ
ミラヘ
○的矢ハカハハギ本也^{見所}雨雪ノ日ナドハウルニキノ矢ヲ用也此漆ハギ
ノ矢ヲバアコメコシラヘト云ナリ
弓書

候串^{コウクシ} マをさすらへ候^{コウ}ま^マとめ^メの^ノ目^メの^ノ中^{チウ}の^ノ通^{ツウ}り
を^を云^ク的^的ノ^ノ字^ジを^を字^ジ書^カ小^小射^射候^候の中^中也^也あり^{あり}俗^俗的^的の^の字^ジを^をさ^さす

射塚^{アツツ} 字亦作塚楊氏漢語抄ニ射塚ハ以久波止古路世間云
阿無豆知今按^{アムツナ}堀^堀の^の字^ジを用也
和名抄

愚按以久波止ハ的^的の^の字^ジを^を用也古言ヤウハ射^射を^を試^試む^む不^不
あ^あら^らハ^ハ素^素文^文素^素書^書と^とい^いふ^ふこと

○射塚又作塚ニ古訓何^何つ^つら射^射を^を試^試む^むハ素^素文^文素^素書^書と^とい^いふ

多

假名字例

